

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-256007  
(43)Date of publication of application : 21.09.2001

(51)Int.Cl. G06F 3/12  
B41J 5/30  
B41J 29/38

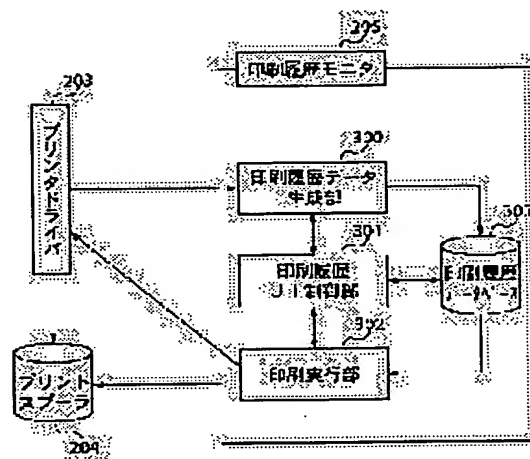
(21)Application number : 2000-063445 (71)Applicant : CANON INC  
(22)Date of filing : 08.03.2000 (72)Inventor : KANAKUBO YUKIO

(54) PRINTER, PRINTING METHOD, PRINT SYSTEM AND COMPUTER READABLE MEDIUM ADAPTABLE TO PRINTER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily and promptly reprint the print data created and once printed by application.

SOLUTION: In this printer to print data created by application software to be operated on a host computer by transferring the data to the printer, print history data regarding a print job are stored when printing is executed, a list of the stored print history data is displayed, the print data are selected from the displayed list of the print history data and the selected print data are printed.



## LEGAL STATUS

- [Date of request for examination]
- [Date of sending the examiner's decision of rejection]
- [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
- [Date of final disposal for application]
- [Patent number]
- [Date of registration]
- [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
- [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
- [Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

[0076] [Third Embodiment]

5 In each of the embodiments described in the above, in the case where there are two or more data to be printed frequently, the print data may be found more efficiently by displaying the data in order with high printing frequency, that is, in order of jobs which have printed more before.

[0077] [Applied Modification]

10 Here, the present invention is not limited to the above mentioned embodiments. For example, in the case where there are other applications which can open the print data without carrying out error processing when an application which created the print data does not exist, the print data may be reprinted by constituting so as to open  
15 the print data on the other applications and print it, for example, even in the case where the original application is uninstalled and there is no time for installing again. In the case of such construction, there is a possibility that original printing set value and the like may come undone. Therefore, it is desirable to ask a user whether or not to open and print  
20 the print data on the other applications after displaying the information about it.

[0078]

Also, it is possible to save time and effort for displaying UI for print history list display repeatedly by selecting and executing two or  
25 more documents on the UI for a print history list display as shown in FIGS. 5 and 6, and continuously printing the documents as separate documents on separate sheets. Furthermore, the time and effort for synthesizing documents on an edit screen may be saved by selecting and executing two or more documents and printing the documents as  
30 one synthesized document.

[0079]

Note that, in this case, not to mention that new print history data is created for the synthesized document, it is desired to add, as an item of the history data, data indicating that it is a synthesized document.  
35 In addition, as for the documents which have not been synthesized, it is desired to ask a user whether or not to leave the documents as print

history data as they are.

[0080] [Disclosure of Invention]

As described in the above, according to the present invention, a printing apparatus which transfers, to a printer, data created by an application soft which operates on a host computer, and causes the printer to execute printing, the printing apparatus comprising: a preservation unit operable to preserve print history data according to a print job when printing is executed; a display control unit operable to have a list of the print history data preserved by said preservation unit display; a selection unit operable to select print data from the list of the print history data displayed by said display control unit; and a print control unit operable to make the print data selected by said selection unit. Therefore, it becomes possible to easily and quickly reprint the print data created and printed once.

15

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-256007

(P2001-256007A)

(43) 公開日 平成13年9月21日 (2001.9.21)

(51) Int.Cl.	識別記号	F I	テマコード*(参考)
G 0 6 F 3/12		G 0 6 F 3/12	A 2 C 0 6 1
B 4 1 J 5/30		B 4 1 J 5/30	Z 2 C 0 8 7
29/38		29/38	Z 5 B 0 2 1
			9 A 0 0 1

審査請求 未請求 請求項の数40 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2000-63445(P2000-63445)

(22) 出願日 平成12年3月8日(2000.3.8)

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 金座 幸男

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ

ノン株式会社内

(74) 代理人 100081880

弁理士 渡部 敏彦

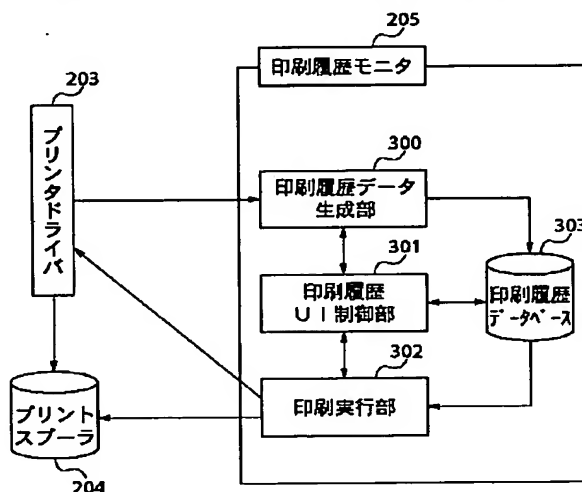
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 印刷装置、印刷方法、印刷システム、及び印刷装置に適用可能なコンピュータ読取り可能な媒体

(57) 【要約】

【課題】 アプリケーションで作成されて一旦印刷された印刷データを、簡単、かつ迅速に再度印刷できるようにする。

【解決手段】 ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転送して印刷する印刷装置において、印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存し、この保存された印刷履歴データの一覧を表示させ、この表示された印刷履歴データの一覧から印刷データを選択し、この選択された印刷データを印刷させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転送して印刷する印刷装置において、  
印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存する保存手段と、  
前記保存手段により保存された印刷履歴データの一覧を表示させる表示制御手段と、  
前記表示制御手段により表示された印刷履歴データの一覧から印刷データを選択する選択手段と、  
前記選択手段により選択された印刷データを印刷させる印刷制御手段と、  
を備えたことを特徴とする印刷装置。

【請求項2】 前記保存手段は、前記印刷履歴データとして、前記印刷ジョブに係るドキュメント名又はファイル名、アプリケーション名、ユーザ名、印刷日時などを保存することを特徴とする請求項1に記載の印刷装置。

【請求項3】 前記選択手段により選択された印刷データの印刷設定値を変更させるべく案内表示させる変更案内手段を備えたことを特徴とする請求項1、又は請求項2に記載の印刷装置。

【請求項4】 前記表示制御手段は、印刷履歴データを印刷頻度の高い順に並べて表示させることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項5】 前記保存手段は、前記コンピュータの起動時に起動されることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項6】 前記表示制御手段は、前記コンピュータの起動時に起動されることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項7】 前記選択手段は、前記表示制御手段によりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたチェックボタンにより構成されたことを特徴とする請求項1～6のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項8】 前記選択手段は、前記表示制御手段によりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたラジオボタンにより構成されたことを特徴とする請求項1～6のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項9】 前記印刷制御手段は、前記選択手段により印刷データが選択された際に該印刷データを作成したアプリケーションを起動し、該アプリケーション上に該印刷データを展開して印刷することを特徴とする請求項1～8のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項10】 前記印刷制御手段は、前記選択手段により選択された印刷データを作成したアプリケーションが存在しない場合は、他のアプリケーション上に該印刷データを展開して印刷することを特徴とする請求項1～9のいずれかに記載の印刷装置。

【請求項11】 ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転

送して印刷する印刷方法において、

印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存し、保存された印刷履歴データの一覧を表示させ、表示された印刷履歴データの一覧から印刷データを選択し、選択された印刷データを印刷させることを特徴とする印刷方法。

【請求項12】 前記印刷履歴データとして、前記印刷ジョブに係るドキュメント名又はファイル名、アプリケーション名、ユーザ名、印刷日時などを保存することを特徴とする請求項11に記載の印刷方法。

【請求項13】 前記選択された印刷データの印刷設定値を変更させるべく案内表示させることを特徴とする請求項11、又は請求項12に記載の印刷方法。

【請求項14】 前記印刷履歴データを印刷頻度の高い順に並べて表示させることを特徴とする請求項11～13のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項15】 前記印刷履歴データの保存処理は、前記コンピュータの起動時に処理待ち状態に設定されることを特徴とする請求項11～14のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項16】 前記印刷履歴データの表示制御処理は、前記コンピュータの起動時に処理待ち状態に設定されることを特徴とする請求項11～15のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項17】 前記印刷データの選択処理は、ダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたチェックボタンを利用して行なわれることを特徴とする請求項11～16のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項18】 前記印刷データの選択処理は、ダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたラジオボタンを利用して行なわれることを特徴とする請求項11～16のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項19】 前記印刷データの印刷処理は、印刷データが選択された際に該印刷データを作成したアプリケーションを起動し、該アプリケーション上に該印刷データを展開して印刷することを特徴とする請求項11～18のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項20】 前記印刷データの印刷処理は、選択された印刷データを作成したアプリケーションが存在しない場合は、他のアプリケーション上に該印刷データを展開して印刷することを特徴とする請求項11～19のいずれかに記載の印刷方法。

【請求項21】 ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転送して印刷する印刷システムにおいて、  
印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存する保存手段と、  
前記保存手段により保存された印刷履歴データの一覧を表示させる表示制御手段と、  
前記表示制御手段により表示された印刷履歴データの一

覧から印刷データを選択する選択手段と、  
前記選択手段により選択された印刷データを印刷させる  
印刷制御手段と、

を備えたことを特徴とする印刷システム。

【請求項22】 前記保存手段は、前記印刷履歴データ  
として、前記印刷ジョブに係るドキュメント名又はファ  
イル名、アプリケーション名、ユーザ名、印刷日時など  
を保存することを特徴とする請求項21に記載の印刷シ  
ステム。

【請求項23】 前記選択手段により選択された印刷デ  
ータの印刷設定値を変更させるべく案内表示させる変更  
案内手段を備えたことを特徴とする請求項21、又は請  
求項22に記載の印刷システム。

【請求項24】 前記表示制御手段は、印刷履歴データ  
を印刷頻度の高い順に並べて表示させることを特徴とす  
る請求項21～23のいずれかに記載の印刷システム。

【請求項25】 前記保存手段は、前記コンピュータの  
起動時に起動されることを特徴とする請求項21～24  
のいずれかに記載の印刷システム。

【請求項26】 前記表示制御手段は、前記コンピュ  
ータの起動時に起動されることを特徴とする請求項21～  
25のいずれかに記載の印刷システム。

【請求項27】 前記選択手段は、前記表示制御手段に  
よりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共  
に表示されたチェックボタンにより構成されたことを特  
徴とする請求項21～26のいずれかに記載の印刷シ  
ステム。

【請求項28】 前記選択手段は、前記表示制御手段に  
よりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共  
に表示されたラジオボタンにより構成されたことを特徴  
とする請求項21～26のいずれかに記載の印刷シ  
ステム。

【請求項29】 前記印刷制御手段は、前記選択手段に  
より印刷データが選択された際に該印刷データを作成し  
たアプリケーションを起動し、該アプリケーション上に  
該印刷データを展開して印刷することを特徴とする請求  
項21～28のいずれかに記載の印刷システム。

【請求項30】 前記印刷制御手段は、前記選択手段に  
より選択された印刷データを作成したアプリケーション  
が存在しない場合は、他のアプリケーション上に該印刷  
データを展開して印刷することを特徴とする請求項21  
～29のいずれかに記載の印刷システム。

【請求項31】 ホストコンピュータ上で動作するア  
プリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転  
送して印刷する印刷装置に適用可能なコンピュータ読取  
り可能な媒体において、

印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴  
データを保存し、保存された印刷履歴データの一覧を表  
示させ、表示された印刷履歴データの一覧から印刷デー  
タを選択し、選択された印刷データを印刷させる内容を

有することを特徴とする媒体。

【請求項32】 前記印刷履歴データとして、前記印刷  
ジョブに係るドキュメント名又はファイル名、アプリケ  
ーション名、ユーザ名、印刷日時などを保存することを  
特徴とする請求項31に記載の媒体。

【請求項33】 前記選択された印刷データの印刷設定  
値を変更させるべく案内表示させることを特徴とする請  
求項31、又は請求項32に記載の媒体。

【請求項34】 前記印刷履歴データを印刷頻度の高い  
順に並べて表示させることを特徴とする請求項31～3  
3のいずれかに記載の媒体。

【請求項35】 前記印刷履歴データの保存処理は、前  
記コンピュータの起動時に処理待ち状態に設定されるこ  
とを特徴とする請求項31～34のいずれかに記載の媒  
体。

【請求項36】 前記印刷履歴データの表示制御処理  
は、前記コンピュータの起動時に処理待ち状態に設定さ  
れることを特徴とする請求項31～35のいずれかに記  
載の媒体。

【請求項37】 前記印刷データの選択処理は、ダイア  
ログ・ボックスに表示された印刷履歴データの一覧と共  
に表示されたチェックボタンを利用して行なわれること  
を特徴とする請求項31～36のいずれかに記載の媒体。

【請求項38】 前記印刷データの選択処理は、ダイア  
ログ・ボックスに表示された印刷履歴データの一覧と共  
に表示されたラジオボタンを利用して行なわれることを  
特徴とする請求項31～36のいずれかに記載の媒体。

【請求項39】 前記印刷データの印刷処理は、印刷デ  
ータが選択された際に該印刷データを作成したアプリケ  
ーションを起動し、該アプリケーション上に該印刷デー  
タを展開して印刷することを特徴とする請求項31～3  
8のいずれかに記載の媒体。

【請求項40】 前記印刷データの印刷処理は、選択さ  
れた印刷データを作成したアプリケーションが存在しな  
い場合は、他のアプリケーション上に該印刷データを展  
開して印刷することを特徴とする請求項31～39のい  
ずれかに記載の媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンピュータ上で  
動作するアプリケーションソフト（ワープロなど）から  
の出力情報を印刷する印刷技術に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の印刷システムでは、コンピュータ  
の二次記憶装置などに保存されている印刷データ（ア  
プリケーションで作成したデータファイル）を印刷する場  
合、ユーザは次のような手順で印刷を実行していた。

【0003】例えば、ホストコンピュータの基本ソフト  
ウェア（OS）として、Windows NTやWind  
ows 98（いずれも米国 Microsoft社の登

録商標)を用いる場合について述べる。

【0004】これらの基本ソフトウェア上では、印刷データはファイルという形式で保存されている。ユーザは第1に、エクスプローラなどのファイル管理用のアプリケーションを使用して、目的の印刷データファイルを探さなければならない。このため、データファイルの数が増えたり、深い階層構造で整理されている場合などは、目的のデータファイルを検索するのも大変な作業となる。

【0005】そして、印刷対象のデータファイルを見つけたら、次に、そのデータファイルを作成したアプリケーション(例えば、ワープロソフト、表計算ソフトなど)を実行して、印刷データファイルをオープンする。そして、そのアプリケーションのサービスとして備えられている印刷命令を実行することで、印刷を行うことができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】このように、アプリケーションで作成されたデータを印刷する場合、ユーザは、上記のような煩雑な作業をその都度行なう必要がある。つい数分前に印刷したデータであっても、それは同様であり、特に頻繁に印刷を行う場合はユーザの負担が非常に大きくなってしまう。

【0007】本発明は、上記従来例に鑑みてなされたもので、その課題は、アプリケーションで作成されて一旦印刷された印刷データを、簡単、かつ迅速に再度印刷できるようにすることにある。

【0008】

【課題を解決するための手段及び作用】上記課題を達成するため、本発明は、ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転送して印刷する印刷装置において、印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存する保存手段と、前記保存手段により保存された印刷履歴データの一覧を表示させる表示制御手段と、前記表示制御手段により表示された印刷履歴データの一覧から印刷データを選択する選択手段と、前記選択手段により選択された印刷データを印刷させる印刷制御手段とを備えている。

【0009】また、本発明では、前記保存手段は、前記印刷履歴データとして、前記印刷ジョブに係るドキュメント名又はファイル名、アプリケーション名、ユーザ名、印刷日時などを保存している。

【0010】また、本発明では、前記選択手段により選択された印刷データの印刷設定値を変更させるべく案内表示させる変更案内手段を備えている。

【0011】また、本発明では、前記表示制御手段は、印刷履歴データを印刷頻度の高い順に並べて表示させている。

【0012】また、本発明では、前記保存手段は、前記

コンピュータの起動時に起動されている。

【0013】また、本発明では、前記表示制御手段は、前記コンピュータの起動時に起動されている。

【0014】また、本発明では、前記選択手段は、前記表示制御手段によりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたチェックボタンにより構成されている。

【0015】また、本発明では、前記選択手段は、前記表示制御手段によりダイアログ・ボックスに印刷履歴データの一覧と共に表示されたラジオボタンにより構成されている。

【0016】また、本発明では、前記印刷制御手段は、前記選択手段により印刷データが選択された際に該印刷データを作成したアプリケーションを起動し、該アプリケーション上に該印刷データを展開して印刷している。

【0017】また、本発明では、前記印刷制御手段は、前記選択手段により選択された印刷データを作成したアプリケーションが存在しない場合は、他のアプリケーション上に該印刷データを展開して印刷している。することを特徴とする請求項1〜9のいずれかに記載の印刷装置。

【0018】なお、本発明に係る印刷方法、印刷システム、及び印刷装置に適用可能なコンピュータ読取り可能な媒体は、夫々、上記印刷装置と全く同様の機能を実現するように構成されている。

【0019】

【発明の実施の形態】以下、添付図面に従って本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0020】[第1の実施形態]〈印刷システム構成の説明〉図1は、本発明の実施の形態に係る印刷システムの概略構成を示すブロック図である。

【0021】本印刷システムは、上位装置であるホストコンピュータ3000と、印刷装置であるプリンタ1000とが双方向性のインタフェース21を介して接続された構成となっている。尚、本発明の機能が実行されるのであれば、単体の機器であっても、複数の機器からなるシステムであっても、或いはLAN(Local Area Network)等のネットワークを介して印刷処理が行われるシステムであっても、本発明を適用できることは言うまでもない。

【0022】図1において、3000はホストコンピュータ(外部装置)であり、コンピュータ本体2000には、ROM3のプログラム用ROMに記憶された文書処理プログラム等に基づいて、図形、イメージ、文字、表(表計算等を含む)等が混在した文書処理を実行するCPU1が備えられ、システムバス4に接続される各デバイスをCPU1が総括的に制御している。

【0023】また、このROM3のプログラム用ROMには、CPU1の制御プログラム等を記憶している。なお、このROM13のプログラム用ROMには、図8〜

11のフローチャートで示されるようなCPU12の制御プログラムも記憶している。

【0024】ROM3のフォント用ROMには上記文書処理の際に使用するフォントデータ等を記憶し、ROM3のデータ用ROMは上記文書処理等を行う際に使用する各種データを記憶する。2はRAMであり、CPU1の主メモリ、ワークエリア等として機能する。

【0025】5はキーボードコントローラ(KBC)であり、キーボード9やポインティングデバイス(図2のマウス220参照)からのキー入力を制御する。6はCRTコントローラ(CRTC)であり、CRTディスプレイ(CRT)10の表示を制御する。7はメモリコントローラ(MC)であり、ブートプログラム、種々のアプリケーション、フォントデータ、ユーザファイル、編集ファイル等を記憶するハードディスク(HD)、フロッピー(登録商標)ディスク(FD)等の外部メモリ11とのアクセスを制御する。

【0026】8はプリンタコントローラ(PRTC)であり、所定の双方向性のインタフェース21を介してプリンタ1000に接続されて、プリンタコントローラ1001との間の通信制御を行なう。なお、CPU1は、例えばRAM2上に設定された表示情報RAMへのアウトラインフォントの展開(ラスターライズ)処理を実行し、CRT10上でのWYSIWYGを可能としている。また、CPU1は、CRT10上の不図示のマウスカursor等で指示されたコマンドに基づいて登録された種々のウィンドウを開き、種々のデータ処理を実行する。

【0027】プリンタ1000において、12はプリンタCPUであり、ROM13のプログラム用ROMに記憶された制御プログラム等に基づいて、システムバス20に接続される各種のデバイスとのアクセスを総括的に制御し、印刷部インタフェース16を介して接続される印刷機構部(プリンタエンジン)17に印刷データとしての画像信号を出力する。

【0028】CPU12は、入出力部15を介してホストコンピュータ3000との通信処理が可能となっており、プリンタ1000内の情報等をホストコンピュータ3000に通知可能に構成されている。

【0029】14はCPU12の主メモリ、ワークエリア等として機能するRAMであり、図示しない増設ポートに接続されるオプションRAMによりメモリ容量を拡張することができるように構成されている。なお、RAM14は、ホストコンピュータ3000より受信した印刷データや画像ビットマップデータを格納しておくための描画メモリ、ビデオ信号ON/OFF情報格納領域、その他のワーク領域等に用いられる。18は操作パネルであり、操作作用の各種スイッチおよびLED表示器等が配されている。

【0030】図2は、図1に示したホストコンピュータ

3000のコンピュータ本体2000と、プリンタ1000のプリンタコントローラ部1001における印刷機能に係る処理構成を説明する機能ブロック図であり、図1と同一の構成要素には同一の符号を付してある。ただし、同一の構成要素であっても異なる名称で呼んでいる場合もある。

【0031】図2において、コンピュータ本体2000は、例えばサーバまたはクライアントとして機能し、印刷データおよび制御コードからなる印刷情報をプリンタ1000に出力するものである。

【0032】プリンタ1000は、機能的に大きく分けてプリンタコントローラ部1001、操作パネル18、印刷機構部17より構成されている。本実施形態では、プリンタ1000として、具体的にはレーザビームプリンタ(以下LBPと記述)を想定している。尚、本発明を適用可能なプリンタはLBPに限られるものではなく、インクジェットプリンタ、サーマル(熱転写)プリンタなど他のプリント方式のプリンタにも適用し得ることは言うまでもない。

【0033】プリンタ1000において、プリンタコントローラ部1001は、コンピュータ本体2000との接続部として機能するインタフェース(I/F)部15、受信データ等を一時的に保持管理するための受信バッファ101、送信データ等を一時的に保持管理するための送信バッファ102、印刷データの解析を司るコマンド解析部104、印刷制御処理実行部105、画像処理解析実行部103、ページメモリ106、出力制御部107等により構成されている。インタフェース(I/F)部15は、コンピュータ本体2000との間で印刷データの送受信を行う通信部である。このインタフェース(I/F)部15を介して受信した印刷データは、その印刷データを一時的に保持する受信バッファ101に逐次蓄積され、必要に応じてコマンド解析部104、または画像処理解析実行部103によって読み出されて処理される。

【0034】コマンド解析部104は、各印刷制御コマンド体系や印刷ジョブ制御言語に準じた制御プログラムにより構成されている。このコマンド解析部104で解析されたコマンドのうち、文字印字、図形、イメージ等の印刷データに係るコマンドは、画像処理解析実行部103に供給されて実行され、給紙選択やリセット命令などの描画以外のコマンドは、印刷制御処理実行部105に供給されて実行される。

【0035】画像処理解析実行部103では、文字やイメージの各オブジェクトをページメモリ106に逐次展開して行く。また、圧縮されたイメージデータを展開する際には、この画像処理解析実行部103にて伸長処理がなされる。ページメモリ106は、この展開処理と印刷機構部17へのビデオ信号の出力との追いかかけ競争、つまりバンデング制御によって管理されていても、或い



は十分なメモリ容量がある場合は、1ページ分が展開可能な領域を確保してもよい。

【0036】操作パネル18は、プリンタ1000の各種状態を設定・表示するためのパネルである。出力制御部107は、ページメモリ106の内容をビデオ信号に変換処理して、印刷機構部17へ転送する制御を行う。印刷機構部17は、受け取ったビデオ信号を永久可視画像として記録紙に形成するための機構である。

【0037】以上、プリンタ1000について説明したが、次に、コンピュータ本体2000の構成について説明する。なお、矩形の破線上にOSと記しているのは、矩形内の各構成要素がOS（基本ソフト）の構成要素であることを意味するものではなく、矩形内の構成要素がOS上で動作するものであるという意味で記したものである。

【0038】コンピュータ本体2000には、入力デバイスとしてのキーボード9やポインティングデバイスとしてのマウス220と、表示デバイスとしてのディスプレイモニタ10が接続され、これにより1つのコンピュータシステムが実現されている。コンピュータ本体2000は、Windows、UNIX（登録商標）、Mac OS（登録商標）等の基本OSの下で動作しているものとする。

【0039】コンピュータ本体2000について、本発明に関する機能的な部分にのみ着目して、基本OS上での機能を大きく分類すると、起動されたアプリケーションソフト201、基本OSの一部であるグラフィック・デバイス・インタフェース（以後、GDIと記す）202、プリンタドライバ203、プリンタドライバ203により生成されたデータを一時的に格納するプリントスプーラ204、さらに本発明に特有な印刷履歴データを一覧表示し、その中から選択された印刷データを再印刷する印刷履歴モニタ205とに分類される。

【0040】なお、基本OSによっては、これらの名称や機能的な枠組みは若干異なる場合があるが、本発明で言う各技術的機能が実現できるモジュールであれば、それらの名称や枠組みは本発明にとってあまり大きな問題ではない。GDIやプリンタドライバと呼ばれるモジュールの名称は、Windows 98やWindows NTに固有の名称であり、他の基本OSにおける同等の機能は、例えば、グラフィックカーネルやプリント・フィルタなどと呼ばれるモジュールで実現されている。また、プリントスプーラ204についても、プリント・キューと呼ばれるモジュールに処理を組み込むことによって実現可能である。

【0041】なお、一般的に、これらの構成要素からなるコンピュータ本体2000は、図1に示したCPU 1、RAM 2、ROM 3、外部メモリ11などのハードウェアの下で、基本ソフトと呼ばれるソフトウェア（BIOS）がその制御を司り、その基本ソフトの下で応用

ソフトが動作するような構成になっている。

【0042】プリンタドライバ203や印刷履歴モニタ205も、この応用ソフトの1つと位置付けられるものである。また、アプリケーションソフト201は、例えば、ワープロや表計算などの基本ソフトウェア上で動作する応用ソフトウェアを指すものである。また、アプリケーションソフト201は、任意のタイミングで複数起動でき（主にメモリ容量により変動する）、それらをアプリ206として図示してある。

【0043】次に、アプリケーションソフト201として、任意のイメージ編集ソフトを使用した場合を例に取り説明する。

【0044】アプリケーションソフト201によりイメージの編集作業を中心に行い、そのイメージを印刷する場合には、ディスプレイモニタ10上に表示される印刷メニューをマウス220などによって選択して、印刷を実行する。次に、アプリケーションソフト201は、基本ソフトの一部の機能であるGDI 202をコールする。このGDI 202は、画面表示や印刷出力などの表示デバイスや印刷デバイスを司る基本関数群であり、各社各様のアプリケーションソフトウェアは、この基本関数群を利用することで、機種（ハードウェア）に依存する部分を意識することなく、アプリケーションソフトウェアを動作させることが可能である。

【0045】次に、GDI 202では、それぞれの印刷装置の機種に依存する情報を管理するプリンタドライバ203から印刷デバイス（この場合はプリンタ1000）の持つ描画能力や印刷解像度などの情報を取り込み、アプリケーションソフト201からコールされたAPI（Application Program Interface）関数を処理し、その処理内容に応じてプリンタドライバがGDI 202に対して提供する関数をコールする。この関数は予め決められたインタフェース（Device Driver interface、通称DDIという）になっており、プリンタドライバの作成者は、このインタフェースから実際の印刷装置へデータを出力するためのデータ変換を中心にして、プリンタドライバを作成することとなる。

【0046】プリンタドライバ203は、GDI 202から受け取ったDDI情報と、それ自身が持つグラフィカル・ユーザ・インタフェース（GUI）によって設定された印刷環境設定をもとに、印刷データ（描画データ）の生成処理207と、プリンタ制御コマンドの生成処理208を行い、生成されたデータやコマンドをプリントスプーラ204に対して送出する。さらに、これらデータやコマンドは、プリントスプーラ204からインタフェース8を経由してプリンタ1000へ送出されることになる。

【0047】次に、本実施形態に係る印刷履歴モニタ205の内部構成について説明する。

【0048】図3は、印刷履歴モニタ205の機能ブロック図であり、前述の図面と共通する部分は同じ番号で示し、それらの説明を省略する。

【0049】図3に示すように、印刷履歴モニタ205は、主に印刷履歴データ生成部300、印刷履歴UI制御部301、及び印刷実行部302、及びHDDなどの2次記憶装置に保存された印刷履歴データベース303の各モジュールにより構成されている。

【0050】印刷履歴データベース303には、印刷履歴データが格納される。図4に印刷履歴データの構成例を示す。図4に示すように、各印刷データは印刷履歴1Dによって保守管理され、ファイル名、アプリケーション名、ユーザ名などが付随している。

【0051】印刷履歴データ生成部300は、印刷実行毎に印刷履歴データを生成し、印刷履歴データベース303に登録、保存し、印刷履歴UI制御部301への通知を行う。印刷履歴UI制御部301は、主に印刷履歴モニタ205におけるユーザインタフェースを制御するモジュールであり、印刷履歴一覧をダイアログ・ボックスに表示したり、印刷データをユーザに選択させて再印刷の実行をスタートさせたりする。

【0052】そして、印刷実行部302は、印刷データの印刷実行を司るモジュールである。

【0053】〔印刷履歴モニタ205の動作説明〕図8は、本実施形態に係る印刷履歴モニタ205の印刷履歴データ生成部300の制御手順を示すフローチャートである。この印刷履歴データ生成部300は、常駐プログラムとして存在し、コンピュータ本体2000の起動と同時に実行される。

【0054】印刷履歴データ生成部300は、まず、ステップS11で、印刷が実行されたかどうかを監視し、なんらかの印刷が実行された場合、ステップS12で、プリンタドライバ203から印刷情報を取得し、その情報を基にステップS13で、印刷履歴データを生成する。そして、ステップS14にて、印刷履歴データベース303にドキュメント名として同じものが既に存在するかどうか検索し、存在しない場合は、ステップS15へ進み、作成した印刷履歴データを印刷履歴データベース303へ追加登録して、ステップS11に戻り、次の印刷ジョブが実行されるのを待つ。

【0055】一方、ドキュメント名として同じものが既に印刷履歴データベース303に存在する場合は、ステップS16にて、印刷日時などの更新を行い（単に上書き保存を実行してもよい）、ステップS11に戻る。すなわち、以上の処理を、1つの印刷ジョブが実行される毎に行って印刷履歴データを作成し、印刷履歴データベース303に蓄積していく。

【0056】図9は、本実施形態に係る印刷履歴モニタ205の印刷履歴UI制御部301の制御手順を示すフローチャートである。

【0057】印刷履歴UI制御部301は、まず、ステップS21で、印刷履歴一覧ウィンドウ（印刷履歴UI、又は印刷履歴ダイアログ・ボックスとも呼ぶ）が起動されるのを待つ。なお、本発明では、この印刷履歴一覧ウィンドウの起動方法は限定されたものではなく、例えば、プリンタドライバ203のUI（ユーザ・インタフェース）に起動ボタンを設けてユーザの操作により起動させたり、コンピュータ本体2000の起動に合わせて自動的に起動させるなど、いかなる起動方法を用いてもよい。

【0058】印刷履歴一覧ウィンドウが起動されると、ステップS22で、印刷履歴データの一覧を印刷履歴データベース303から取得し、ステップS23にて、印刷履歴一覧ウィンドウをディスプレイモニタ10へ表示する。例えば、図5に示したように、印刷履歴一覧ウィンドウ（ダイアログ・ボックス）は、グラフィカルなユーザ・インタフェースを持ち、過去の印刷履歴を分かり易く表示するようにしている。図5の例では、印刷ドキュメント名（ファイル名）、アプリケーション名、ユーザ名、印刷日時を一覧として表示しているが、表示内容はこれに限ったものではなく、過去の印刷履歴が容易に分かる内容であれば、どのような表示内容であってもよい。

【0059】次に、ステップS24では、印刷履歴データベース303が更新されたかどうかを監視する。ここでは、直接、印刷履歴データベース303が更新されていないかを監視してもよいし、印刷履歴データベース303が更新された場合に、印刷履歴データ生成部300から更新通知を受けることにより監視してもよい。

【0060】印刷履歴データベース303が更新された場合には、ステップS22へ戻り、印刷履歴一覧ウィンドウの更新を行う。一方、印刷履歴データベース303が更新されなかった場合は、ステップS25にて、ユーザにより印刷履歴UI上で再印刷を実行する印刷データが選択され、印刷実行ボタンが押下されたかどうかを監視する。

【0061】すなわち、印刷履歴UI制御部301は、再印刷を実行したい印刷データを選択する機能を提供しており、図5の例では、印刷履歴UIの一番左側の「印刷」という欄の各チェックボックスがこれに相当し、チェックボックスに●が付された「会社案内図」というドキュメントが、印刷データとして選択されたことを意味している。もちろん選択方法はこれに限ったものではなく、リストボックス形式や、ラジオボタンにしてもよい。このようにして印刷データを選択し、印刷実行の指示は、印刷履歴UIの下方にある印刷実行ボタンを押下することにより行なう。

【0062】印刷実行ボタンが押下された場合は、ステップS26へ進み、印刷実行命令と再印刷を行う印刷データの印刷履歴1Dを印刷実行部302に渡すことによ

り、印刷の実行を通知して、ステップS24に戻る。なお、印刷実行ボタンが押下されなかった場合も、ステップS24に戻る。

【0063】図10は、本実施形態に係る印刷履歴モニタ205の印刷実行部302の制御手順を示すフローチャートである。

【0064】印刷実行部302は、まず、ステップS31で、印刷履歴UI制御部301から印刷実行命令が発せられるのを待つ。印刷実行命令を受け取った場合は、ステップS32へ進み、同時に受け取った印刷履歴1Dを基に、印刷指示に係る印刷データに対応する印刷履歴データを印刷履歴データベース303から引き出す。そして、ステップS33で、印刷履歴データで示されたアプリケーション、すなわち印刷指示に係る印刷データを作成したアプリケーションが存在するかどうかを確認する。

【0065】そのアプリケーションが存在する場合は、ステップS34へ進み、印刷履歴データで示されたドキュメント名の印刷データファイル（印刷指示に係る印刷データ）が存在するかを確認する。ここで、印刷履歴データで示されたアプリケーション及び印刷データファイルが存在しない場合は、ステップS37へ進み、印刷不可能エラーを表示して、ステップS31へ戻る。

【0066】一方、上記アプリケーション及び印刷データファイルが存在する場合は、ステップS35へ進み、そのアプリケーションを起動し、印刷データファイルを開く。そして、ステップS36で印刷を実行して、ステップS31へ戻る。

【0067】なお、印刷を実行する際、印刷に関するプリンタの各種設定（印刷部数、給紙トレイ等）としては、印刷履歴データの各種プリンタ設定情報（図4参照）として保存されている設定値、すなわち過去に印刷した時の設定値を使用するものとする。

【0068】以上説明したように、本実施形態では、過去に印刷を実行したことがある印刷データに関しては、印刷履歴一覧表示から印刷データを選択し、印刷実行ボタンを押下するだけで再印刷が可能となる。

【0069】〔第2の実施形態〕第1の実施形態では、再印刷時におけるプリンタの各種設定は過去に印刷した時の設定値を使用していたが、第2の実施形態では、印刷履歴一覧表示で印刷データを選択した後、プリンタの各種設定値を変更して印刷できるようにしている。

【0070】図6は、第2の実施形態における印刷履歴一覧表示のUIを示す図である。第1の実施形態との違いは、印刷設定ボタンを設けた点にある。

【0071】印刷データを選択した後、この印刷設定ボタンが押下された場合の印刷履歴UI制御部301の制御手順を、図11のフローチャートに基づいて説明する。

【0072】印刷履歴UI制御部301は、印刷設定ボ

タンが押下されると、ステップS41で、印刷設定UIを表示する。具体的には、図7に示したように、用紙サイズ、給紙トレイや印刷部数、用紙の向き等の各種印刷設定項目を変更可能な印刷設定UIを表示する。ただし、これら設定値に限らず、文字種、線種、文字サイズ、1行の文字数や1ページの行数、編集方向、拡大／縮小の印刷倍率、片面印刷／両面印刷、片面複数ページ印刷／両面複数ページ印刷、白黒印刷／カラー印刷等の設定値を変更可能な印刷設定UIを表示するようにしてもよい。

【0073】次に、ステップS42にて、印刷設定値が変更されたかどうかを監視し、変更された場合は、ステップS43で、ユーザによる変更入力を印刷設定UIに反映させる。そして、ステップS44にて、戻るボタンが押下されか否かを監視し、戻るボタンが押下された場合は、ステップS47で、印刷設定UIを終了して印刷履歴UIに戻ることににより、変更内容を元通りに戻す。なお、ステップS42にて、印刷設定値が変更されなかった場合は、ステップS43をスキップして、ステップS44に進む。

【0074】一方、戻るボタンが押下されなかった場合は、ステップ45にて、印刷実行ボタンが押されたか否かを監視する。その結果、印刷実行ボタンが押下された場合は、ステップS46へ進み、変更された各種印刷設定値をプリンタドライバ203に設定して印刷を実行する。印刷実行ボタンが押下されなかった場合は、ステップS42へ戻り、同様の処理を繰り返す。

【0075】以上説明したように、本実施形態では、印刷履歴一覧表示から印刷データを選択し、印刷を実行する場合であっても、プリンタの各種印刷設定を変更することができる。

【0076】〔第3の実施形態〕上記各実施形態において、印刷履歴データを表示する際に印刷頻度の高い順に、すなわち過去の印刷実行回数の多いジョブの順に表示することにより、頻繁に印刷を実行するデータが複数ある場合に、より一層効率よく印刷データを見つけられるようにしてもよい。

【0077】〔応用変形例〕なお、本発明は、上記の各実施形態に限定されることなく、例えば、印刷データを作成したアプリケーションが存在しない場合に、エラー処理することなく、当該印刷データを開き得る他のアプリケーションが存在する場合は、当該他のアプリケーション上で開いて印刷するように構成することにより、例えば元のアプリケーションをアンインストールし、再度インストールする時間的な余裕が無いような場合でも、再印刷できるようにすることも可能である。このように構成した場合は、元の印刷設定値等が崩れてしまう可能性があるため、その旨の情報を表示した上で、当該他のアプリケーションで開いて印刷するか否かを、ユーザに問い合せるのが望ましい。

【0078】また、図5、6のような1つの印刷履歴一覧表示のUI上で複数のドキュメントを選択して実行させ、それらドキュメントを別々のドキュメントとして、別々の用紙に連続的に印刷させることにより、印刷履歴一覧表示のUIを何回も表示させるための手間を省くことも可能である。さらに、複数のドキュメントを選択して実行させ、それらドキュメントを1つの合成ドキュメントとして印刷することにより、編集画面上でドキュメント合成を行なう手間を省くようにしてもよい。

【0079】なお、この場合には、合成ドキュメントについて新たな印刷履歴データを作成することは勿論であるが、その履歴データの項目の1つとして、合成ドキュメントである旨のデータを追加することが望ましい。また、合成前の複数のドキュメントについては、これらをそのまま印刷履歴データとして残すか否かを、ユーザに問い合せるのが望ましい。

【0080】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ホストコンピュータ上で動作するアプリケーションソフトで作成されたデータをプリンタへ転送して印刷する印刷装置において、印刷が実行された際に、その印刷ジョブに係る印刷履歴データを保存する保存手段と、前記保存手段により保存された印刷履歴データの一覧を表示させる表示制御手段と、前記表示制御手段により表示された印刷履歴データの一覧から印刷データを選択する選択手段と、前記選択手段により選択された印刷データを印刷させる印刷制御手段とを備えたので、アプリケーションで作成されて一旦印刷された印刷データを、簡単、かつ迅速に再度印刷することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用した印刷システムの概略構成を示すブロック図である。

【図2】上記印刷システムにおける印刷機能の処理構成を説明する機能ブロック図である。

【図3】印刷履歴モニタの構成を示す機能ブロック図である。

【図4】印刷履歴データのデータ構造を示す概念図である。

【図5】本発明の第1の実施形態に係る印刷履歴一覧表示のダイアログ・ボックスを示す図である。

【図6】本発明の第2の実施形態に係る印刷履歴一覧表示のダイアログ・ボックスを示す図である。

【図7】本発明の第2の実施形態に係る印刷設定のダイアログ・ボックスを示す図である。

【図8】本発明の第1の実施形態に係る印刷履歴データ生成部の制御処理を示すフローチャートである。

【図9】本発明の第1の実施形態に係る印刷履歴UI制御部の制御処理を示すフローチャートである。

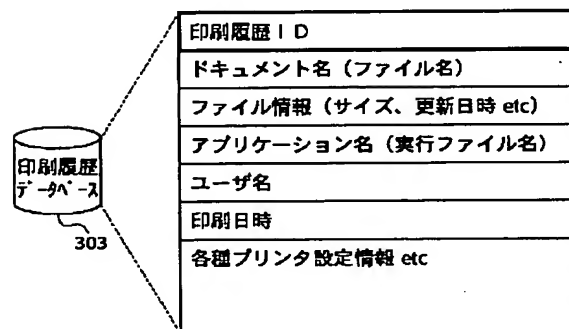
【図10】本発明の第1の実施形態に係る印刷実行部の制御処理を示すフローチャートである。

【図11】本発明の第2の実施形態に係る各種印刷設定UIの制御処理を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1、12…CPU
- 2、14…RAM
- 3、13…ROM
- 10…CRT
- 11…外部メモリ
- 18…操作パネル
- 201…アプリケーションソフト
- 203…プリンタドライバ
- 204…プリントスプーラ
- 205…印刷履歴モニタ
- 300…印刷履歴データ生成部
- 301…印刷履歴UI制御部
- 302…印刷実行部
- 303…印刷履歴データベース
- 1000…プリンタ
- 1001…プリンタコントローラ部
- 2000…コンピュータ本体
- 3000…ホストコンピュータ

【図4】



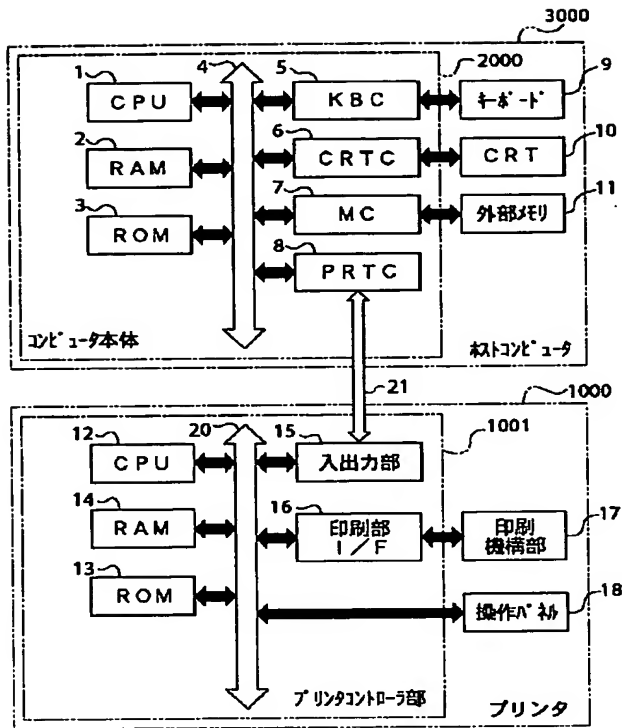
【図5】

★ 印刷履歴 — プリンタ A

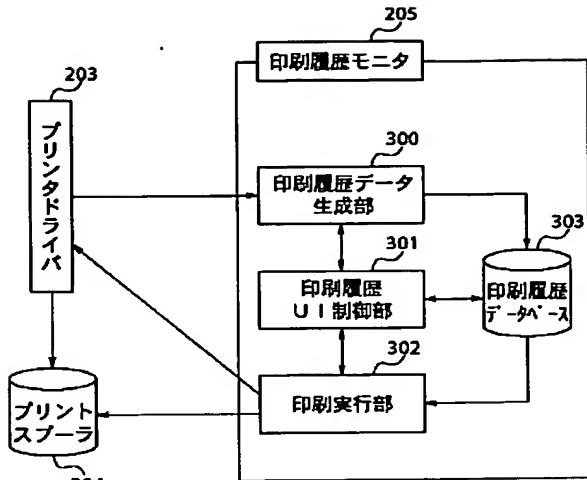
印刷	ドキュメント(FILE)	アプリケーション	ユーザ	印刷日時	
	業務日誌	ワープロ A	Aaa	99/01/31 09:43:00	▲
	日程表	表計算 1	Bbb	99/01/31 11:05:15	
●	会社案内図	描画 X	Aaa	99/01/31 16:30:32	
	交通費精算書	表計算 1	Ccc	99/01/30 08:30:00	
	依頼書 1	ワープロ A	Aaa	99/01/29 10:15:00	
	依頼書 2	ワープロ B	Aaa	99/01/29 10:18:00	
	依頼書 3	ワープロ B	Bbb	99/01/28 13:30:15	
	依頼書 4	ワープロ B	Ddd	99/01/28 15:45:20	▼

印刷実行    キャンセル

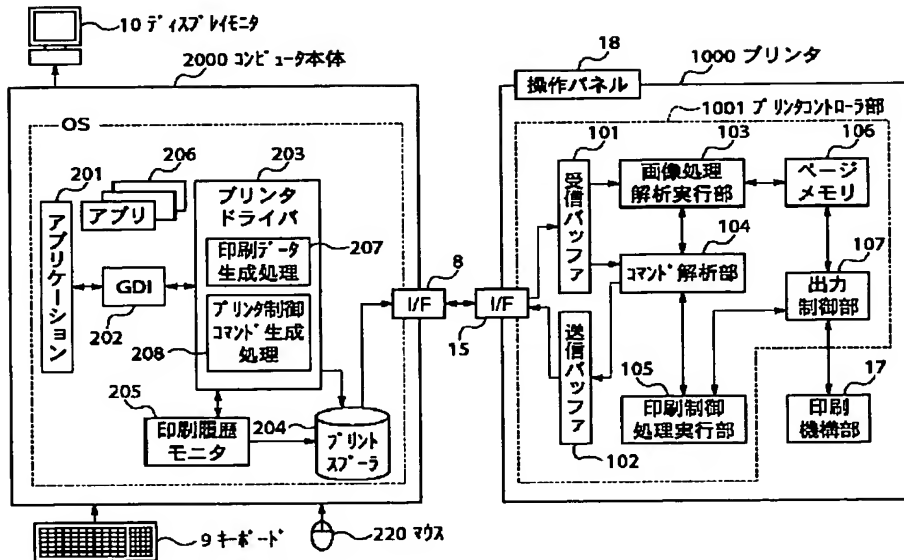
【図1】



【図3】



【図2】



【図6】

★ 印刷履歴 — プリンタ A

印刷	ドキュメント(FILE)	プリンタ	ユーザ	印刷日時
	業務日誌	ワープロ A	Aaa	99/01/31 09:43:00 ▲
	日程表	表計算 1	Bbb	99/01/31 11:05:15
●	会社案内図	描画 X	Aaa	99/01/31 16:30:32
	交通費精算書	表計算 1	Ccc	99/01/30 08:30:00
	依頼書 1	ワープロ A	Aaa	99/01/29 10:15:00
	依頼書 2	ワープロ B	Aaa	99/01/29 10:18:00
	依頼書 3	ワープロ B	Bbb	99/01/28 13:30:15
	依頼書 4	ワープロ B	Ddd	99/01/28 15:45:20 ▼

印刷実行    印刷設定    キャンセル

【図7】

★ 印刷設定 — プリンタ A 「会社案内図」

● 用紙サイズ — Letter ▼

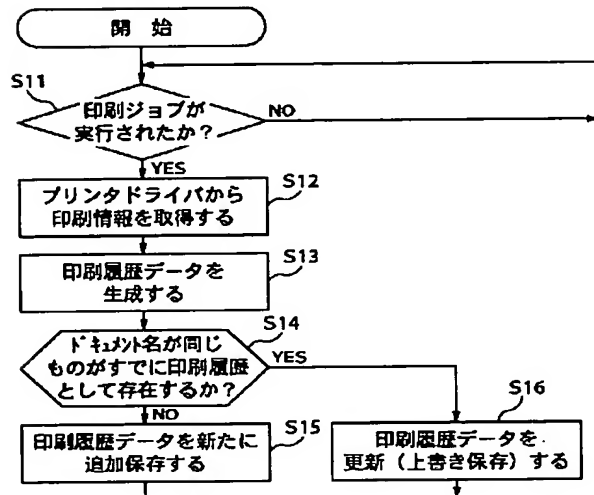
● 給紙トレイ — 上段カセット ▼

● 印刷部数 — 1 部

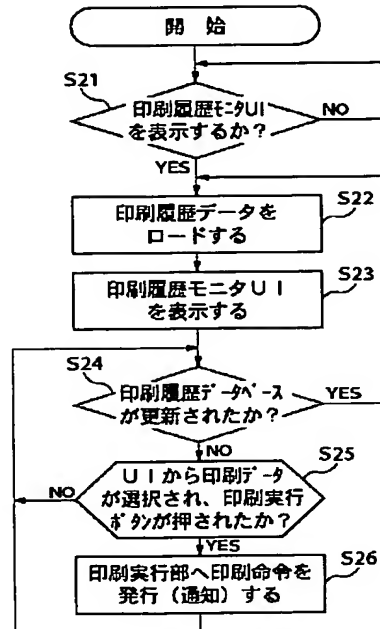
● 用紙の向き — 縦 ▼

印刷実行    戻る

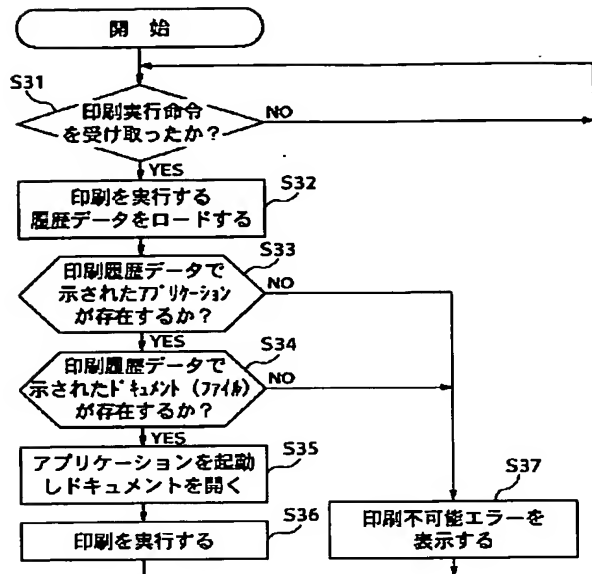
【図8】



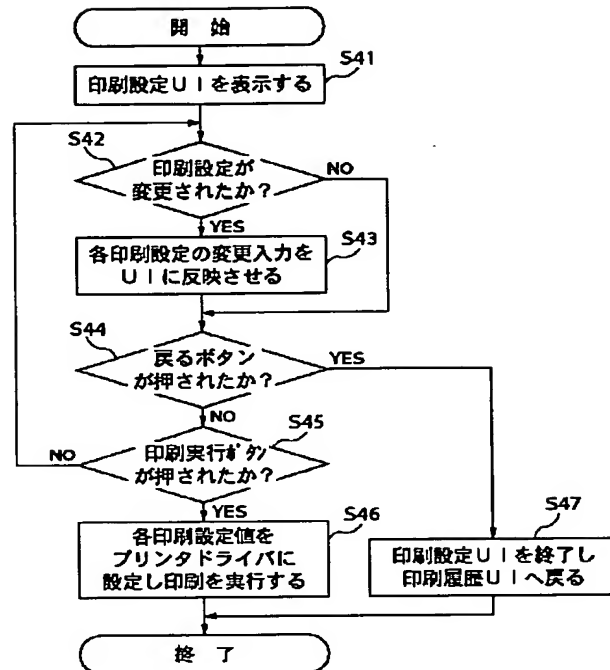
【図9】



【図10】



【図11】



フロントページの続き

Fターム(参考) 2C061 AP01 AP02 AQ04 AQ05 AQ06  
 AS02 HJ06 HN05 HN15  
 2C087 AA02 AB01 AB05 AC05 AC07  
 AC08 BA03 BA06 BC07 BD46  
 CB05 CB16  
 5B021 AA01 BB05 DD03  
 9A001 BZ03 HH34 JJ07 JJ35 KK42